



SKK
SUPERIOR
COATINGS

SK MASTIC A

エスケーマスチックA

コンクリート壁面厚膜仕上げマスチック塗材ローラー工法（都市再生機構適合品）

ホルムアルデヒド
放散等級
F★★★★

マスチック塗材ローラー工法は、優れたローラー塗り適性と厚付け適性を持つ塗材を使用した仕上げ工法です。多孔質ハンドローラーを用いて1段塗りで厚付けができ、材料の飛散を防止する低公害型の仕上げ工法として開発されたものです。

エスケーマスチックAは都市再生機構が規定する有機質系の外装用マスチック塗材Aに該当します。

特長

厚塗り層を一段塗りで塗付することができます。

吹付工法に比べ養生を軽減でき、塗材の飛散も少なく、作業環境や周辺環境の汚染防止に役立ちます。

下地への密着性、耐水性、耐アルカリ性、耐洗浄性に優れています。

耐久性が高く、長期に亘り、美観を維持します。

ローラー作業性に優れています。

適用下地

コンクリート、セメントモルタル、スレート板 など

塗材の種別・用途・組成・性能

塗材の種類		マスチック塗材A	
塗材の工法種別		A	AE
略号		MR-A	MR-AE
主な用途区分		内外装用	
主材の主成分		合成樹脂エマルジョン	
上光塗りの有無	上塗り無 (艶消し)	○	—
	上塗り有 (JIS K 5660艶有り合成樹脂エマルジョンペイント)	—	○
防火認定		○	—
性能特長		耐候性・耐水性 耐アルカリ性・耐亀裂性 防火性・耐洗浄性 付着性	
仕上りのテクスチャー		やや鋭い感じの山立ちをもった「さざ波状」で、骨材粒子が表面に露出したきめの粗い仕上がり。 MR-AEは光沢があるので、汚れが付きにくい。	

マスチック A (MR-A)



(艶消し)

マスチック AE (MR-AE)



(艶有り)

荷姿

エスケーマスチック A	20kg 石油缶 (標準塗坪：14～16 m ² /缶)
エスケーGPペイント	18kg 石油缶 (標準塗坪：69～90 m ² /缶)
エスケーマスチックシーラー	16kg 石油缶 (標準塗坪：106～160 m ² /缶)
エスケーマスチックカラーシーラー	20kg 石油缶 (標準塗坪：60～100 m ² /缶)

上記の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。

《危険情報と安全対策》

製品の取り扱い、それぞれのSDS(安全データシート)に従ってください。
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

標準施工仕様

凹凸模様仕上げ(新築仕様)

(23)

材料種別	工法種別	工程	使用材料	希釈剤 希釈率%	所要量 (kg/m ²)	標準塗付量 (kg/m ²)	放置時間 (hr)	
A	A	1. 下地押さえ	エスケーマスチックシーラー	水 0	0.12～0.15	0.12	3以上	
		2. 主材塗り	エスケーマスチックA	水 0～5	1.2～1.4	1.2	16以上	
	AE	1. 下地押さえ	エスケーマスチックシーラー (エスケーマスチックカラーシーラー)	水 0 (水 0～10)	0.12～0.15 (0.2～0.3)	0.12 (0.20)	3以上	
		2. 主材塗り	エスケーマスチックA	水 0～5	1.2～1.4	1.2	16以上	
		3. 仕上材塗り (エマルジョン形)	1回目	エスケーGPペイント	水 0～10	0.10～0.13	0.10	5以上
			2回目	エスケーGPペイント	水 0～10	0.10～0.13	0.10	—

注) 都市再生機構保全工事など改修工事の場合は仕様異なります。詳しくは最寄りの各営業所にお問い合わせください。

1. エスケーマスチックカラーシーラーを用いた仕様は、特記仕様となります。
2. 押出成形セメント板、GRC板、PC部材などへの施工については、別途ご相談ください。

施工上の注意点

1. 天候に注意し、次の場合は作業を中止してください。
気温 5 以下、湿度 85% 以上の場合
下地の乾燥が不十分(含水率 10% 以上、pH10 以上)の場合
降雨、降雪、強風、あるいはこれらが予想される場合
2. 塗装方法は、多孔質ハンドローラーを用い、まず素地へ配り塗りを行い、続いてならし塗りの後、ローラー転圧(下から上)により一回塗り工程で仕上げてください(一段塗り)。
3. 塗り幅は 80cm 前後を標準とし、塗り継ぎ部が目立たないように、むらなく塗付してください。
4. 万一パターンが不均一になった場合は、同一作業時間内に追いかけて塗りを行い、むら直しを行って調整してください。
5. 押出成形セメント板、GRC板、PC部材などへの施工については、別途ご相談ください。なお、軽量 PC 部材への施工は避けてください。
6. 上塗材の希釈率は、試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率にて使用してください。なお、希釈率は色目び施工時の気温により変化することがありますのでご了承ください。
7. 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺい性の良い共色を塗装してください。
8. 濃色や原色に近い色目は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
9. 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
10. かびや藻が付着している場合は、「SKK カビ除去剤 #5 (塩素系)」にて拭き取るなど、適切な下地処理をしてから塗装してください。
11. 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
12. 塗り重ね時間は環境(温度、湿度、換気、風通しやすさ)や膜厚によって変わります。
13. 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
14. やに・あくが付着している場合は、中性洗剤など(やに・あくが著しい場合は、アルカリ性洗剤など)で拭き取った後、あらかじめSK水性ヤニ止めシーラー(15kg 石油缶)を塗付してください。

15. S K水性ヤニ止めシーラー、エスケーマスチックシーラーは、他の水性塗料が混ざるとゲル化することがあります。他の材料との混合や、刷毛、ローラー、エアレスなどの塗装器具の共用は避けるとともに、同じ洗い水での塗装器具の洗浄は行わないでください。
16. 補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
17. 補修塗りの際、仕上がり肌の違いにより、色目に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に仕上がり性を確認した上で希釈量等を決定してください。
18. 刷毛で補修塗りをを行う際、スプレー塗りやローラー塗りとは仕上がり肌の違いにより、色目に若干の差を生じることがあります。
19. シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により塗膜が密着しないことや汚染することがあります。詳しくは、もよりの各営業所へお問い合わせください。
20. 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
21. 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行なってください。
22. 塗膜の膨れ、剥がれ、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
23. 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生、艶引けなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
24. 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤形塗料での塗装を推奨いたします。
25. 結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
26. 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温 5 以下、湿度 85%以上での施工は原則的に避けてください。気温 5 以下での施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により雰囲気温度、被塗面温度を 5 以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
27. 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所にて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
28. 「標準塗付け量」は、被塗装面に付着させる塗材の量を示します。また、「所要量」は塗装ロス等を考慮した塗材の使用量を示し、塗装条件などにより異なります。各材料の使用数量などを算出する際には、「所要量」を基準としてください。
29. 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。
30. 防火認定仕様、または公共建築工事標準仕様【新築・改修】につきましては、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

(1907.H-2)